

応募数及び入賞入選数

(単位:点)						
部門 作品数	絵画	彫刻	書	工芸	写真	計
応募数	190	9	23	23	71	316
入賞入選数	168	7	18	18	49	260

運営委員長　内田いず美　（浜松市美術館協議会会長）

審査員

絵画	遠藤　彰子（画家、武蔵野美術大学油絵学科名誉教授） 石黒賢一郎（画家、広島市立大学芸術学部准教授）
彫刻	田中　毅（彫刻家）
書	広瀬　舟雲（書家・書道研究家、武蔵野大学教育学部教授）
工芸	山本　一樹（工芸作家、静岡文化芸術大学名誉教授）
写真	大森　克己（写真家）

ごあいさつ

内田いず美

第72回市展を開催できますのも、市展に応募されました316名の皆様方、そしてご多用にもかかわらず、浜松市美術館へご来館いただきました皆様方のおかげです。皆様方に敬意と感謝を申し上げます。ありがとうございます。

さて、私たちをとり巻く世界は、悩ましい状況で先が見えない混とした状態が続いています。だからこそ、誰もが安心・安全に、豊かな生活ができる社会を望みたいです。今回応募されたどの作品も、鑑賞していると、心が洗われ豊かな気持ちにさせていただける力作ばかりでした。その素晴らしい作品に触れることができ、スタッフ一同喜びに堪えません。

入賞・入選は全体で260点・28点あり、それぞれの部門の大賞を1点選び、その中から市長大賞を選んでいただきました。その結果、今年度は絵画部門の作品「まいご」(志村茉美さん作)が市長大賞に選ばれました。作品の前に立つと、カラフルな色合いと描かれている堂々とした羊、効果的な赤い毛糸に目を奪われ、一目で魅了されます。作品に引き込まれると、時間を忘れ想像が広がります。

ご来館された皆様一人一人が、展示室という宝箱に入り、ワクワクしながらご自身の感性で宝物の作品を見つけてください。今回の市展が、市展の趣旨である、美術の創作と鑑賞を勧め、郷土の文化・芸術の向上を図る機会に寄与出来ますことを願っています。

審査評

絵画

遠藤　彰子

今回、浜松市・市展の審査に参加させていただきました。入選作品は、風景画や身近な物や人物などの具象作品が多く、どれも高い完成度を誇っていました。また、抽象性の高いものや、心象風景を造形化したような作品もあり、自らの表現というものを確立しようとする強い意志が感じられました。

今年の市長大賞となった志村茉美さんの「まいご」は、色彩の鮮やかさに加え、毛糸の使い方に、表現としての広がりと豊かさを感じられる素敵な作品です。高校生ならではの新鮮な感覚で、丁寧に描かれている点を高く評価いたしました。他にも奨励賞を受賞した作家は、創造力と情熱が感じられる、とても良い作品が揃っておりました。出品された作家たちの今後の更なる活躍に期待したいと思います。

最後に、今後とも市展が浜松市の文化の向上と、作家の発表の場として機能し続けることを願っております。

絵画

石黒賢一郎

現代絵画は、その表現領域を拡張し続けている。本展においても伝統的技法を踏襲しつつ、新たな視点を取り入れ、社会的・個人的内面の顕現を試みた作品群が多数見受けられた。

市長大賞に輝いた志村茉美さんの「まいご」は、具象と抽象が融合した表現が際立ち、羊の質感と装飾的背景の対比が視線誘導の効果を生んでいる。赤い糸が束縛と結びつきを暗示し、秩序と混沌が共存する視覚的緊張感を構築している。加えて、本作が高校生の手によるものであることにも驚かされた。

奨励賞の中で中村公則さんの「fracture」は、モノクロームの色調と精緻な描写により独自の視覚世界を構築し、夢や記憶の断片を鮮やかに浮かび上がらせている。野村健一さんの「昭和の子供達」は、社会的・歴史的文脈を喚起しつつ、強い緊張感と深遠な問いを投げかける力強い作品である。坂田康雄さんの「帰り道」は、荒々しい筆致と重厚な色彩の相乗効果によって、劇的な叙情性を際立たせた秀逸な作品である。山本梢さんの「原生林」は緻密な描写と絡み合う植生の動勢が、自然の生命力と混沌を見事に映し出しており、静謐と躍動の均衡が巧みに制御されている。

出品者たちの自由な造形言語は、鑑賞者に多層的な解釈の可能性を示唆し、対話を促す契機となっている。本展が今後も創造の場として深化し続けることを期待したい。

彫刻

田中　毅

応募作品9点のうち木彫が5点と多く、自然豊かな浜松を感じさせてもらいました。

賞に推した衛藤秋津さんの「円空彫　柿本人麻呂像」は、万葉の昔や異国文化も感じさせる作品でした。なぜかいいですね。

市川務さんの「晩秋の森で」は人物表現などがおもしろく、このまま大きく表現してもおもしろい風景作品になるのではないかと思います。惜しむらくは、木杵がない方が物語を、一人ひとりの人生を空間の中で生き付かせられる感じがします。

入選作品を見ると良く作られているなあと思います。作られた方の主張やおもしろさをもっと出してみると、素晴らしい作品に、飽きない作品になるのかな。

書

広瀬　舟雲

個性的なもの、鍛錬されたもの、書の技に優れたもの、新しい分野への挑戦など、たくさんの素晴らしい作品のご応募がありとてもうれしく思いました。漢字や仮名の書、漢字仮名交じりの書、篆刻、刻字、前衛書など書の分野も多様でした。どの作品も积文と照合し、誤字・脱字がないか調べました。积文記入後、自分の書作品との照合を必ずしてください。どんなに技が優れていても伝統的な分野の書作品は、文字の芸術である以上、正しい字形で揮毫されていることが大切です。うろ覚えのままではなく、字典で草書の字形などよく調べ点検してから自分の書制作に生かしていただきたいと存じます。漢字の多字数作品は書き込むため、練習の途中から脱字を起こしがちです。常に原典との再点検を忘れずに。墨色にも注意を払ってください。作品の構成(全体感)は大変優れているのですがテクニックに走りすぎ、字画の細部を疎かにしている作品があり、とても惜しいと思いました。前衛書に関しては線と造形の質・斬新かという視点で選定。市展なので色々な分野の作品をなるべく幅広く選びました。大賞の平川彩日さんの作品は、大胆なデフォルメで、あら削りながら浜松の海岸で力強く飛ぶ風の様子を、書表現に織り込んだ快作です。奨励賞の鈴木雅子さんの作品は篆書に個性的な妙趣を加え堂々とさせました。もう一人の奨励賞の松山美和子さんの刻字作品は、着実な自書を丁寧に刻し、雑念のない品位のある清涼感を表出させているところに心惹かれました。浜松市市展のご発展と、皆様のますますのご精進を期待します。

工芸

山本　一樹

「工芸」は今年も個性豊かな出品作が並びました。一般的に「工芸」とされているもの以外の素材や表現方法を使った出品作も多く、審査は困難を極めました。発想の豊かさやオリジナリティを第一番とし、次に、形の美しさと作者のこだわりが感じられる作品を選考しました。

大賞の鈴木佐知子さんの「碧潭（へきたん）」は、力強い形と美しい青色に惹かれました。外側の切欠き模様も面白い効果が出ています。内側の釉薬の流れ模様と透明感も美しいです。欲を言えば、高台の三本足が造形的に弱く感じます。足は、大地に立つ部分なので、上の伸びやかな形を受け止めるような力強い造形の方が緊張感を感じられたと思います。

奨励賞の野島節子さんの「春がすみ(手織着物)」は、作家自らソメイヨシノやコヒガンザクラを用い、糸を染めるところから始め、浮織技法で織り上げた手間のかかった秀作です。温かみを感じられる良い作品になっていると思います。

同じく奨励賞の石井孝子さんの「ハーダングー刺繍と薔薇の競演」は、その緻密な手仕事の積み上げに感心しました。制作に1年かかった事も納得のいく作品だと感じます。

「工芸」は素材に対する理解・知識に加え、技法の習得・習熟があったうえで作品が成り立ちます。制作場所や道具など、制作するためには多くの障害がありますが、ガラスや金属など、もっと様々な素材を扱う方の応募が増えることを期待しています。

写真

大森　克己

大賞に選ばれた石川純さんの「輝く日を仰ぐとき」は写真にとって最も重要なファクターの一つである光の美しさと有り様を見る人に強く感じさせてくれる作品でした。被写体のニホンザルの表情や佇まいも素晴らしく、これ見よがしでない穏やかな生命力を感じました。またプリントの仕上げもとても丁寧です。鈴木幸保さんの「光のボール」は映っている少女に対するストレートで優しい眼差しが印象に残ります。向山暁さんの「感激」は面白い瞬間をとどめたいという率直な欲望が感じられて、写真を撮ることの楽しさを伝えてくれます。平野保彦さんの「幻想」は実際に撮った画角の上下を入れ替えて作品として仕上げる自由さが良いと思いました。中谷国比古さんの「整列」は派手さは無いのですが、何気なく見過ごしてしまいそうになる、世界の片隅で起こっている不思議な出来事に対する感受性が素晴らしいと思いました。

写真を撮る時だけでなく、日々の暮らしの、学校生活や仕事、家族や友人との語らいの中でもドキドキするような出会いや発見が必ずあると思います。その気持ちや感覚を撮影の際にも忘れずに、日々の作品撮影に励んでいただいて、また来年も素敵な作品に出会えることを楽しみにしています。

最後に昨年の選評の繰り返しになってしまっていますが、せっかくの力作の題名やタイトルに関してはもう少し深く考えていただきたいと思いました。何気なく思い込んでいる(思い込まされている)既成のことばの在り方に対しての「本当にそうなのだろうか?」という切実な問いかけが、写真に限らず芸術作品を作る過程において大切なのではないのでしょうか。

令和6年度

浜松市

第72回

市展

主催：浜松市

開催期間　令和7年2月22日(土)～3月26日(水)

2月25日(火)、3月3日(月)、3月10日(月)、3月17日(月)、
3月24日(月)休館

開館時間　9時30分～17時（最終入館は16時30分）

会　　場　浜松市美術館

※作品番号と展示の順番は、必ずしも一致しません。

[illegible]